

熊本県の歯科保健

～健康長寿の実現に向けて～

熊本県 健康福祉部健康局 健康づくり推進課
参事 井上秀代

熊本県の歯科保健について6回にわたり紹介させていただきます。
どうぞよろしくお願いいたします。



健やか生活習慣くまもと
県民運動キャラクター
「ASO坊健太くん」

第1回 歯と口の健康は健康づくりの基本

🌿 目指す姿 “健康長寿”

本県では、県の取り組みの基本方針である『幸せ実感くまもと4カ年戦略』に掲げた「いつまでも楽しく、元気で、安心して暮らせるくまもと」を実現するため、健康に重要な役割を果たす歯と口腔の健康づくりを通じて、健康寿命※を延ばす取り組みを進めています。

また、「熊本県歯及び口腔の健康づくり推進条例」（平成22年11月施行）に基づき、県民が年齢や心身の状況に応じて歯及び口腔に係る良質なサービスの提供を受けることができるよう、さまざまな取り組みを実施しています。



※健康寿命：健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間

🌿 現状から見えてくる世代ごとの課題

子どものむし歯が多い

本県の子どものむし歯の有病状況は、全国平均よりも高く、むし歯が多い県の一つです。

1歳6カ月児のむし歯有病者率(H25)	2.98%	全国43位(全国平均1.91%)
3歳児のむし歯有病者率(H25)	26.14%	全国42位(全国平均17.91%)
12歳児の一人平均むし歯本数(H26)	1.3本	全国41位(全国平均1.0本)

歯周病にかかっている人が多い

また、平成23年度「熊本県歯科保健実態調査」の結果によると、歯周病にかかっている人の割合は、40歳で47.0%、50歳で56.5%、60歳で63.5%と年齢が増すほど多くなっています。

8020（ハチマルニイマル）達成者が少ない

平成23年度「熊本県健康づくりに関する意識調査」の結果によると、本県では、80歳になっても自分の歯を20本以上保つ「8020運動」を進めていますが、80歳で歯が20本以上ある人は38.3%となっており、全国平均の40.2%と比べて少ない状況です。

歯周病と全身の健康との関係について知られていない

平成23年度「熊本県健康づくりに関する意識調査」の結果によると、歯周病が影響を及ぼす病気があると認識している人の割合は、全体の45%で、その中で、糖尿病が26.1%、誤嚥性肺炎が10.8%、低体重児出産（早産）が6.0%、心臓病が17.2%となっているなど、歯周病と他の病気との関係についての知識は十分には普及していない状況です。

🌿 歯と口の健康の大切さ

歯と口の健康は、健康づくりの基本であり、いつまでも自分の歯でおいしく食べられることは、QOL（生活の質：満足度や幸福感）の高い生活を送るために大変重要なことです。

歯と口腔の健康づくりには、歯科疾患を予防するだけでなく、糖尿病をはじめとする生活習慣病や早産の予防となり、さらには、適切な口腔ケアが行われることで、誤嚥（ごえん）性肺炎の発症を防ぐなど、全身の健康と密接に関連していることが明らかになってきています。歯を健康に保つことは、将来の健康寿命の延伸への第一歩といえます。丈夫な歯を持ち、よくかんで食べることは、生涯を通じた食育や生活習慣病予防へとつながります。

🌿 「歯と口の健康週間」のお知らせ

6月4日から10日までの期間は、「歯と口の健康週間」です。

期間中は、郡市歯科医師会を中心に、県内各地域で、むし歯や歯周病の予防方法や歯並び等を気軽に相談できるコーナーや無料歯科健診、歯磨き指導、フッ化物塗布・洗口の体験等の各種イベントがあります。

この機会に、歯と口の健康について改めて考えてみませんか？ 皆さん、どうぞお気軽にご参加ください。

次回は、各ライフステージに応じた取り組みについてご説明します。